



# 辻川だより

第17号 [2011 春号] 平成23年4月2日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]  
〒679-2204 福崎町西田原 1227  
TEL 0790-22-5763  
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujukawa/>



柳田國男50年祭

区長 釜坂道弘

福崎町では、今年に柳田國男の50周年を迎える年として、山桃忌に併せて「柳田國男50年祭」という事業を計画し準備を進めています。

これは、「柳田國男生誕の地 福崎」を全国に発信し認知いただくとともに、民俗学の研究の発展に寄与することを目的としています。

この事業は、8月6日・7日にエルテホール・辻川界隈・文化センターを主な会場とし、全国から多数のお客様をお招きし開催する予定です。

「生家」のある辻川区としては、「辻川界隈展」「民俗学のタビ」もこの事業に参加して、行政と地域が一体となって「民俗学のあるさとつくり」に取り組みたいと考えています。

ふるさとの文化を育み、地域住民一人ひとりの郷土への誇りと愛着と熱意によって、「辻川らしさ」にこだわったまちづくりをみんなで取り組みたいと考えています。区民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



3/6 消火訓練 ↓ ↑ 1/9 冬えびす

## 協議員会は今

2・3月の定例協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。

① 山口堂改築建設委員選出。協議員・老人会・歴史探検隊を中心に十一名に委嘱予定。

② 今年度の防災訓練では消火訓練と防災マップ作成のため

のまち歩きを実施

③ 一九隣保近くのゴミステーション改修。ゴミは回収当日の朝に出すよう啓蒙徹底。

④ 区内の神社とお堂はすべて建物共済に加入した。

⑤ 公民館前に5月をめどに防犯灯設置。防犯灯の球切れにスムーズに対応するために区内防犯灯に通し番号を。

⑥ 「子どもを守る110番の家」登録を呼びかけては。

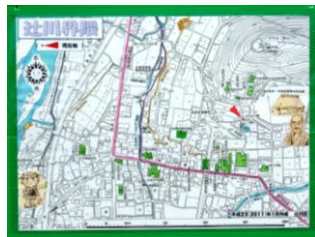
⑦ 街づくり事業として鈴の森駐車場案内標識を左記案内看板観光マップと併せて設置。

## お知らせ

■ 旧道から北方を中心21箇所案内看板を設置。現在地とスケールを表示(下写真)。

■ 例年、5月連休前に行われていた「民俗 辻広場まつり」は、8月の「柳田國男50年祭」と同時開催に。

■ 辻川鬼太鼓が5月3日、町制50周年記念式典に出演。



## 当面の予定

5月15日 溝普請

(辻川山清掃の同日実施検討)

6月 フラワーポット植替  
7月2日(土)

各種団体・隣保長会議

## 祭礼行事報告

◇1月1・2日 正月祭り

◇1月9日(日) 冬えびす

十隣保の方を始め、30余名の参拝がありました。

◇1月15日(土) とんど

翌16日は日中の最高気温が11度と今シーズンで最も冷え込んだ一日でした。以上十隣保

◇2月3日(木) 節分 年越祭

十一隣保最初の祭儀。最も世帯数の少ない隣保ですが、歳灯(さいとう)・柴灯・斎灯(さいとう)は大きく燃え上がりました。

◇2月20日(日) 初午祭

景品集めが困難である等により、福引が取りやめになりました。福引をはじめ初午祭のあり方についても検討の時期が来ているように思います。

## 事業報告

◇1月16日(日)

平成23年度辻川区総会

98名出席。新区内入り4世帯。第1・4号及びその他議案承認。区長・協議員選出。

「質問」… 会計報告に残高証明の添付を。山口堂の改築費用支出については慎重に調査研究を。鈴の森神社の玉垣改修はまず境内と本殿周辺から。

村入りの規約運用に関して不公平感の是正を、等。

◇1月22日(土)

新隣保長会議

① ブロック長の選出 ② 町内会費徴収について ③ 2・4月行事・事業確認 ④ 平成23年度祭礼行事日程について等

◇2月19日(土)

福崎町民生委員合同防災訓練

民生委員と民生協力委員による区内災害時要援護者の安否確認訓練実施。対象者25名

◇3月6日(日)

自主防災訓練

消防団の斡旋による消火器販売・薬剤詰替えと消火訓練実施。「火事だー」の大声が消火活動を冷静にさせるそうだ。その後の防災マップ作成のための「まち歩き」とまごめ会の会には総勢50名弱が参加。最初の一步を踏み出した。

平成23年度辻川区役員一覧〔総軒数三二七軒〕  
4月から団体役員に一部変更があります。〔4/2現在〕

区長 釜坂 道弘  
副区長 内藤 政義(総務)

会計 新見 良一  
協議員 ( ) は主な担当

釜坂 好隆(土木)  
田崎 正和(広報)

金井 年郎(環境)  
松岡 博子(文化)

鈴木 健文(体育)  
井上 良宣(文化)

山本 英次郎(環境)  
川端 一郎(体育)

会計監査 宮島勇・有井登  
隣保長 (◎はブロック長)

1ブロック [世帯数] 1 多田 廣明 [三]  
2 松岡 信孝 [二四]

◎ 3 福富 成泰 [三六]  
4 多田 勝二 [一九]

2ブロック 4 上延 孝 [七]  
◎ 5 尾上 利幸 [五]

6 古井 稔 [九]  
7 高井 紳一 [二二]

3ブロック 1 0 後藤 俊彦 [五三]  
1 1 伊藤 源五 [六一]

◎ 1 2 内藤 泰彦 [七]  
1 3 岡野 晴行 [二二]

4ブロック 8 古井 徹夫 [二〇]

◎ 9 伊藤 博行 [三〇]

1 5 牛尾 要次 [二二]

2 0 岡部 善那 [一四]

2 1 松岡 均 [二二]

5ブロック 1 6 松本 重信 [九]

1 7 長谷川洋一 [二二]

1 8 金井 年郎 [二〇]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

◎ 1 9 谷口不二也 [九]

編集後記 未曾有の大震災、私たちの  
できることを行動に。長期持久戦です。

鈴の森神社の  
玉垣にみる昔の  
辻川の賑わい

鈴の森神社の境内には、参道の坂道を上りきったところと山頂(山口堂)への出口に、「北海道 松岡源之助」と「北海道 松岡宗次」の門柱(大玉垣)がそれぞれ対になって奉納されています。そこで平成23年はお二人、特に『松岡源之助』さんにスポットを当て、八隣保の松岡秀隆さんによる4回連載(17号⑥、20号⑨)でお届けします。ご期待ください。



6 松岡源之助の  
生立ちと生涯

松岡源之助は、明治六年(一八七三)二月一七日、辻川一八番地で、父福五郎、母いさの長男として生まれました。辻川の屋台蔵の北辺りにあたります。源之助が生まれた頃、松岡家は、母屋のほか、その裏に続く一反(注1)ほどの田がありました。

二反の内、一反三畝は自作、残りの七畝は小作でした。源之助が十三歳の時、父の福五郎が亡くなり、一家の柱となつた源之助は、農業と線香の製造販売に励むことになりました。その傍ら、運送業を始めました。手車を買入れ、米を飾磨まで運び、飾磨では干鰯(いわし)などを積み込み、運んだのです。そのような源之助に転機が訪れます。十六歳になった時、大阪へ出たのです。大阪の口入屋(注2)で紹介されたのが、順慶町で毛糸や帽子などを商っている大谷彌助商店でした。ここで働くようになった四年目の或る日、店主を訪ねてきた人が、頻りに北海道の話をしているのを聞いた源之助は、北海道に渡るべく、主に暇乞いをし、母に相談をしました。当然反対されましたが、何とか許しを得、明治一四年、小樽に渡つたのです。

その後、一旦、辻川に帰り、再び北海道に渡っています。室蘭に上陸して、札幌を経て空知郡奈井江に移り住むことになりました。奈井江で源之助が始めたのは、枕木の販売です。明治九年当時、日本鉄道会社による東北本線の施設工事の最中であり、枕木の需要は急速に高まっていたのです。この事業での成

功を経て、源之助は富良野村東中に移り住み、松岡木材を興します。「東中こそ松岡木材部」として事実上の発祥地である(注3)といわれています。

このように、苦難の中にありながらも順調に推移していったように見える源之助ですが、一大窮地が訪れます。それは、石狩川の氾濫で、源之助が保管していた角材が流失して、橋や道路だけでなく、堤防や田畑までも破壊したのです。共同経営をしていた二人は行方をくらましてしまいました。源之助は私財のすべてを補償に充てましたが、まだ足りないほどでした。しかし、このような源之助を見ていた人がいました。三井の小川多慶でした。愛別村で農業を営んでいた失意の源之助に、小川は山林業をもちかけたのです。「もう山は懲り懲りだ」という源之助に、「儲けは君のものだ。損は三井で始末する」という信じられないような好条件を提示して、源之助を表舞台へと引き出したのです。これが、木材王・源之助誕生の礎となったのです。

(注1) 尺貫法(昭和三四年に廃止された)で、土地の面積を表す単位。一反たは三〇〇坪で、約一〇〇〇〇㎡(一一〇〇アール)。十畝が一反。

(注2) 奉公人などの斡旋を業とするところ。

(注3) 眞宮政久著『故松岡源之助翁追慕記』